P
279
6

逍遙文庫
文庫6
27
6

頭書増補訓蒙圖彙巻之十二

畜獣

此部ふハ山野人間ともに
くのけだ物をあつる

麒麟 仁獣なり

麒麟

麟身牛尾
一角あり牡を
麒といひ牝を
麟といふ生虫
とふまれど
生草を踏まず
聖人乃世ふ
いづる獣
なり

文庫6
27
6

○獅子は百獸の長なり一日に五百里を走る虎豹牙爪を食ふ故なり

獅子とは恐るべき天竺の猛獸なり

獅子

○獬豸は異國の獸なり其形獅子に似たり一角あり一名神羊と云能曲直を別る皐陶獄を治む時その罪うたがはしきものは獬豸にわらしめ罪わるきものは是を食罪なきものは

獬豸

○虎はとら猫のおゝきさ牛乃如し色黄ふ
ちそ前足を
ちゝく一身の力
前足よわり夜
ゆふ一目は光と
成ら一目は物
をうつる変ノ雷の
ごとくうく風
補云
とおこるを山
よりて虎一変ノ
恐れまい百獣恐
をそれひとし

虎とら

○駒虞は白虎
なりそのの
尾身ながく
なゝ仁獣
なり
○豹はひとら
虎にとく似て
ちさと頭黒く
面白し毛色
補
黄ふく白
きりめと
黒点なり故に
名豹毛彩
とゝ
ひと

駒虞

豹

○貘ハ熊ニ似タリ象の鼻犀の目尾ハ牛の
おしく虎の足銅鉄及竹を食フ
よく猛しるけどものをり
補をべくのもき
夢をとらしを
いふものなり
枕ふくろにして
貘まくらと名ケく

○象ハ異国の大獣なり
鼻牙ともく
補食ハ口よりを
くらひ
ふハ鼻より
吸ひこむこと
ふ一まきび
鼻を大ふ
ふとむかり
牙ことを
て茅のうつハ
のまたくる
象牙といふ
なり

○犀い毛豕の
ごとく蹄ま
三甲あると
頭い馬のごとく
三角あり鼻
上額上頭上
ふすあと

○熊い毛色黒く
形豕に似たり胸
に白脂あり俗ふ
熊白といふ洞穴に
すむと穴熊といい
冬ねむるを冬熊と
いい熊躍いく虎の
たぐひ熊膽ふくま
のあり

○狼い狗ふに似て大也
頭ちかくして頬白く
毛黒きるく淡ひゐ
口とがりて大きく
力ちからく猪獣
をくらい食ふ
らく淡をくらふ

○豺い狼の類
力ちから色黄ふかく
頬白く尾なが
狼ろうにかあり
小くして力ちから
備獣を喰ふ
悪獣なり

○鹿は馬のごとくにして小なり頭長く脚細くるし　牡は角あり夏至よりつぬ牝は角なし　六月より角を落す　秋のをへよりまたをとす　虚労とあるさまひ腰とあるくめ一切の病に益あり

○麋は鹿のなかまなり

○麞は秋冬は山にをり春夏は沢に居る　鹿よりいくぶんちいさく角なし　黄黒色也　雄は牙あり

○麋は鹿のごとく青黒色なり大さ牛のごとし　目の下に二の穴あり夜の目しるし

○麋は羊に似たり　青色なりて大なり　角は細くて短し　人の指ほどなり　四五寸ばかりとなる

○麝は麞に似てふく色黒
臍に香氣あり
補注 ちゃうこうは是なり故に麝の
臍をもむと云
○羊は柔毛の畜
なるを羣と稱
あるを羣と稱
のまは羊に
ちなむ
○綿羊は羊の
毛のやわらか
なる
とう夏羊
胡羊と云

○豕は豬彘の惣名
なり野豬豪豬を
とり不潔を喰ふ
よって豕といへり
腎虚を補ふ
○豚は家の子を唐人
云て常に食を
○野豬は腹ふく脚
ながく毛褐色牙ふ
てうけ拔き力つよ
味まことに癲癇を
治し肌膚を補ふ
○山豬は項脊に棘
鬣あり長さ二尺ば
かり筋のごとく觸
てきは矢を射るが如し

○馬は火氣を受て生る火は木を生ずるゆえに馬は故ふ肝あり〻く膽なし〻膽は木の精氣多り木膽不足を故ふたの肝とくらしよりの死を

○駒は馬二歳多と駒とは又五尺以上を駒と

○驪は馬の純に黑きものあり〻くろこまなり

○騮は赤馬の黑きあり〻くなるを騮同けのむまなり

○驄は馬の青きあり〻くなるを

○駃は馬の純なるを駃同

○驄は馬の青きあり〻くなるを

○駿は馬の連錢葦毛あり〻くなるを駿同

○牛は田と耕を
畜かるゝ鹿
ふの牛は
殺して祭る供
野牛五ゝ
牛わゝ牲
ふとるゆゝは
大牢とゝ

○犢ゝ牛の子
ゝゝ犢乃皐
男根に似
ゝゝゆゝ男根と
攢皐とゝ
かゝる

○驢ゝゝ紀馬と
ゝゝ耳かゝき
馬かゝ鹿
ふの是とゝ
倭國ゝゝかゝき
馬かゝ

○駝ゝ背に肉鞍
あゝて峯の
おゝゝ頸かゝく
ちゝく脚ゝ
其毛溫厚
ゝて狐の毛
ゝゝもゝゝゝ
かゝ裏ゝ
深ゝ

○狐い狗ふ似く
鼻とりを尾大
かりを畳ひ人を
夜出る馬骨狐
人て吹が光と出
し食と求む是
と狐火しい人を
人て光をみと
もいへ百歳を経て
ゆと化ふ
と化して
○猫い眼晴ふ午卯
酉ふい糸のごと
寅申巳亥ふ満月
の如く丑未辰戌ふ

い東を核のごとく鼻
常に冷かり夏至
一日わくとかり
○狸い虎狸ふ猫
狸ふと猫狸いと
食をべるを頭とり
口方ふ公虎狸と云
○貉い狐狸ふ似て
て毛黄ふて褐色
かりく体ふ畳
いうして夜出る
○貒い犬ふ似て喙
とがり足黒く毛褐
色ふり尾長ちく
ゆくとおと耳
聾てんと出る

○獒犬は大犬なり
ちからは四足なる狐
獒といへ俗ごうきと
唐犬といへ
○犬は味鹹温毒なり五臓を安し氣
を平し骨に宜し
○獵犬は毛長し
尨狗獅犬同し
むくいぬかな
○蝟鼠は貓のごと
脚短く尾長し
色青白し足毛
人とさを山谷田野
に生ず猬同
○靈猫は南海の山

獒犬

獵犬

犬

谷ふ生をのこりた
ぬきのみ〜淡い
鹿射のごと〜
○兎は前足みじ
かく尻より丸の乳を
産平毒なり中
を補ひ氣とまを
○猿は禺のたぐひ
猴ふ似て脊かゞし
ゝく樹の枝を攀
○猴はいろ〜人に似
るを腹ふ脾なり
ちく行とうて食
を消をゝく立く
ゆくせさんりしく
ちて物に害を

蝟鼠

靈猫

兎

○獺は水中にをり四足とも小短し色青黒し魚ばかりくらひ水氣腹満と治を多食べるを

○貂は鼠のたぐひ大小にて黄黒色かるくもろくしてわるくさわり帽子領巾に寒気をふせぐ俗に栗鼠と出

○鼯はふ狐のごとく肉翅蝙蝠に似たり脚みじかく尾長さ三尺ばかりと声人のしゝなくごとく火煙と

猴

猿

獺

喰ふ者なれば人ばかりにあらしむくるるきにあがるるものあるなり

○鼯は鼠のごとくにして皮変ずつる色し一名礼鼠

○海狗は腽肭脐かたち狐ごとにて尾は魚のごとく身に青白き毛あり又青黑き點あり脐は脾腎の貴ぶと治を

○海獺は獺に似て大さ犬のごとく

貂

鼯

鼯

脚のうへに皮わり毛ありふつて濡るをわるのとつ

○水牛は色あをく腹大き沢そだるとかくら豬ふ仙きりあまく食をれば清渇をやめ脾胃を中ひあひ虚をおきなひ水腫を治す

○猩猩は海中にをむ獸也毛色黄ふ〜てさるのごとく耳白く面と足人のごとくして酒ばこのむ血をもつて深

○狒々は猴羊と積て狒々とかくしふ形人のごとくにして大なり脣長く反踵髪を被ふり迅走て人を食ふと見えたる矣

○鼠は四齒ありて牙多し前の爪四ツ後の爪五つあり小兒乃驚風てんかんと治す

○鼹は鼠の孫なり多し鼠のちのさいのあり人とんらんて痛すと瘡となる

○鼱は鼠ちいさくして伯労の化するりの多し鼠に似て頭も目のちいさくして尾ふ〜毛色黄黑し地中にとうるてみを以食ふ日月の光をなる

○鼬は鼠より大ふ多くく四足みどりく尾大なりいろ黄ふ〜くあ〜〜く鼠とる

○角はあをふさるりけざわ角とりくあ〜をふなる

鹿は夏至に角おちて
秋分ふせぐを鹿角水
牛の角器ゆつる
○牙は歯のおくなる
ものゆり象の牙を
大ものそうは物ゆ注
ゆり猪の牙は物をを
つをなめるふを
○駿は馬の頭ゆあるを
てめるゆりゆるゆるを
ゆるゆる髪鬢鬣
ゆるびゆ同
○蹄はけものの足の
さきゆり麒麟は蹄
のトに肉ゆて物をを
んてゆるゆるをといく

頭書増補訓蒙圖彙 巻之十三

禽鳥

此部には山林ふかもりに
くらすとのもろもろを

○鳳凰は神霊の鳥
かを雄を凰と雌
を凰といふ其のち
雛ふかをそうは雛いと
糸をををををを
尺声は簫のごと
生虫を啄を生草
をふまを桐をこの
竹實をゆゆ
鳳皇瑞鸞並同

○孔雀は大さ鴈より
やゝ大きく雄は
かしらふさ毛ありて
く長さ一寸余背
緑色にして光りあ
尾の玉は青くひろる
人目を驚かす歌に
尾をひろげて舞

○錦雞は山どりに
似てふく羽色はえ
美なり孔雀めも
称乃こゝ〜鷩雉
系鶏並同
○白鷴は山雞に
て色白〜黒き交
わり尾の長さ三四
尺ばかりあり食と
きは中に補ひ毒
を解を

○鶴は長さ三尺余嘴乃長さ四寸項目頰わかく脚めとく頸ながく指かそく羽白くつぶさ黑し灰半になく声まーりて多ひと糞石ま化を

○鸛は鶴に似くいでき丹くをとび長く嘴わく色灰白つぶさ黑し末に巣

○鶴鴿は鶴雛

鸛

鶴

鶴鴿

○鴈は大なる鴻と

ひふかくを鴈と云

くしく食をもえ

気どうどう骨を

さうんみを

○鴻は鴈の大なるもの

なり江渚に多くわ

つまるかふとを出也

五臓を利し丹石の

毒を解を

○鵠は鴈より大なる

羽白くして花味ひ

わまく平毒なる人の

気力をまし脆膵を

鴈

鴻

鵠

○鴛鴦は蒼白の二反わりまぜこ緑嘴黄に脚紅なりよく國ふ食をもとは五勝の熱と解を

○鴨はうち鳧ふ仙をそなへ飛ことあるとど羽久は白とあり頭黒きはやもの羽色のごと大寒毒をゝ風虚寒熱水腫を治を

○鵜鶴は鳩の大さかどわり陸とあるひとしわさうど水ふ入て

魚とる

○鳧は品類多く大ふわり羽色さまぐくもとり圖をとるとる俗ふゝ真鴨あり中仙猶ひ気を良胃を平し

○鷗は白さ鴿のごと嘴みぐくむ〻ぐり飛で日ふゝやく海をこ位三月ふ卵をうむ

○鴛鴦は大さ鴨の如し色黄黒羽青くひりふ毒あり夫婦和ぜぐるりのにいひをふ

食ひ〜む

○鷺い頸かとく長く喙脚ともに長大小なるい頂に長き毛あり鞭と毛とを補ふ

○鵜鶘い水鳥なり大さ鷺のごとし灰白色背黒とせどろぐろいひかしわと星ごとしとふ諸魚の毒を解

○紅鶴い一名朱鷺といふ鷺より大なり色白くかしわ俗ふたうぐとなり

○鸕い大さ鳩よりかしふ〜喙脚長く羽茶色に黒きまだら田沢ふちむ大ふわり大なるかをきこと

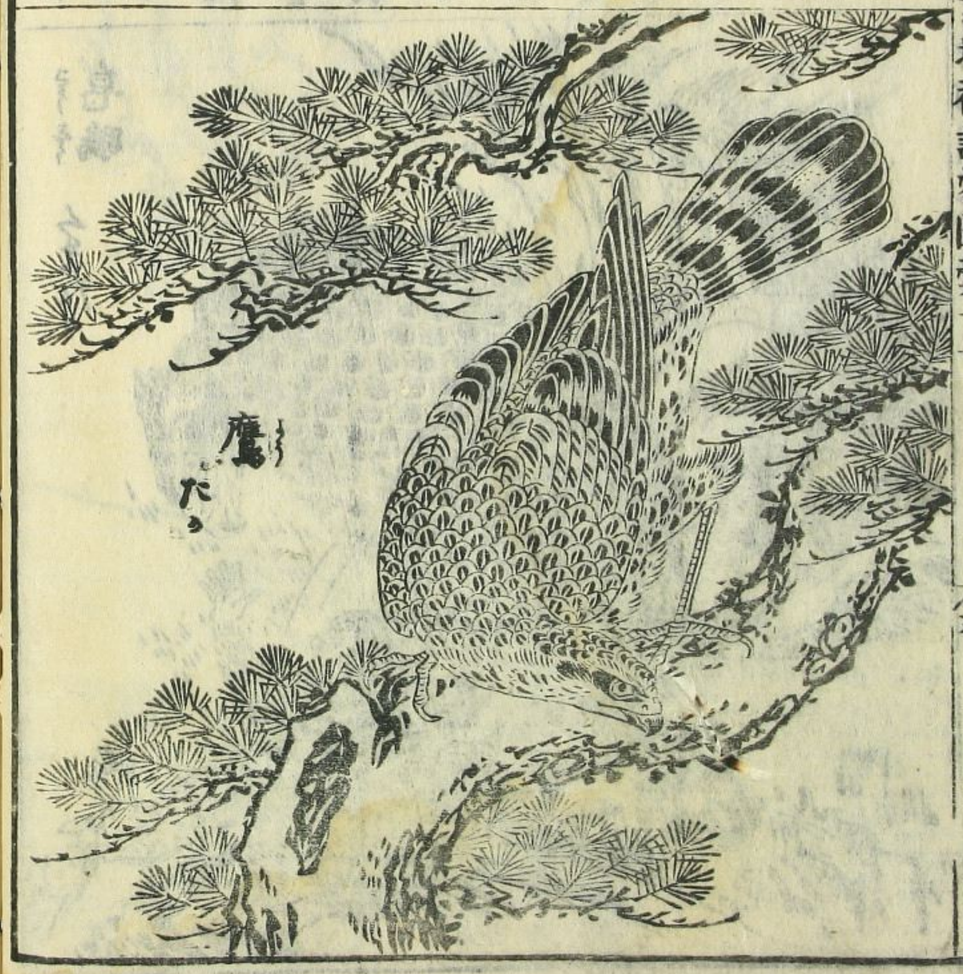
いふ虚猟ひ人と暖

○鸕鷀い鴉に似て頸長く喙かし長し水ふ入てよく魚とる材木に巣くふ漁人ふて魚狐

○就鳥は鷹の大なるものなり至て大なるは七八尺なるもあり其色は黄みをおびて黒くふとり觜黄なり深山にをる空中にかけりて獣をつかみ喰ふ

○皂鵰は鷹の大なるものなり翅つよく空中をかるく飛めぐり諸鳥をいとも速に獣をとり食ふ其長三尺ばかり唐土にいふ大鷹といふは就鳥皂鵰といふを今日本にいふ大鷹と称するものは隼なるべし

○鷹い惣名ゆえ大
ふとの品多く勇猛
の鳥なり四猟ふも
ちひく猪鳥とそう
ちむう事いとのくを
神功皇后の御代う
百濟國よりそゆえ
鷹狩獻ぜしとや
ゆゑうの代と鷹を
りてめとびめ鷹い
朝鮮國乃産と分一
そを



○隼い鷹の中ゆく
そうぞりのあり形も
大みして鳶ゆとめと
を雑鴈鴨ゆとの大
鳥ととふ鶴なとふ
い隼と二羽くると
りや鶴同
○鷂い鷹のゆきと
なう鷂のゆきと兄
鷂といくさうにふきと
雀鷂といいづきも
かうちふさけきびふ鳥

とるなり

○雀鷂 雀鸇

何れも鷹の名小鳥をとる鷹の種品四十八あり鳶鵰梟とりあつて四十八種とせりとりとりあつめども狩猟にもちゆる鷹は其飼人の名分るあり又むしろ名巻の鷹には悉く異名あり亦異国をも

鷂 たか

兄鷂 このり

つくりし鷹ふい異類をもとにあつめ

唐鷹高麗南蠻琉球日本にも東国西国北国四国中国九州との国々のうりありとりや鷹乃羽ふり羽ふり四枚あ羽合て四十八枚尾ハ十二枚ありいづれも名あり鷹ハ尾ハ十二枚あり

雀鷂 雀鸇 ろうさら

○鶯い毛うと青〜
立春のくちゝとめて
さへつる声春陽に應
ど

○鷦鷯い小雀ようちの
さく赤黒く黒きふ
あり寒中雪中ふ
さくろう甚い居ゝど

○鶺い冬さくろう雪
びくんとうくい青くひ
ゝる羽色ようもくう
ひくさいびいろに黒
き羽もどる

○山雞い雉小仙
てをこ〜ふくた
て尾長く羽色黄
赤〜山ふすむや
鶉雉といあびて
食をまい中仙補ひ
気仙ゝと

○啄木いふさい雀ろ
ごく大きいひよどり
びゝ色下腹赤く背
雉のおく赤仙つき
くうく出と食ふ

○雲雀は一名蒿雀
とゝの雀よりあゝ大
に茶色ふゝてふあを
三月の始より夏至の
頃まで空ふかとりく
ゝ啼く湯にかゝ精
髓とゝぎあふ
○雉は雄は羽色美
尾長く雌は茶色
ちゝくふゝ春湯より
至りてあく九月より
十一月まで食べし

○練雀は尾の長き
と短きの二種あり大
さひよどりよりふゝ
黑く褐色尾ふ白く
毛ありく練ゝる第一
のごゝ
○鴉は雀の大さなど
ありく黑く青くし
ふあり冬月多く俗
わをしこのふ此鳥と
黑やくふゝて腫物
に付て妙藥なり

○鶉いひさごりの大さなどありくれさ秋かり勢身こはゝ分るふあり赤ふ黒ふの二品あり秋のこゝふ至つゝとゝく人此声とい貴じて多く籠ゝ入てゝ人粟とこのんで食ふあゝり食をれゝ五勝とおゝきひ中とまをかを

○吐綬雞い大さ鷄のごゝ頭雉小似まり羽の文黒黄ゝ去てかゝあり項ゝ嚢あゝく肉綬を細日和ゝく快さ附いこの嚢とのぐゝあそぶ

○山鵲い鵲のごゝくあゝて文黒く文茶あり觜あゝく尾長ゝ去てとんをく飛ゝとあたゝど

○鶤雞い雞の大なるをかり一名倉雞
といふもろこし蜀
中に多し羽色黑
白の二品あり其性
勇ふそなく闘ふ
みちやむ國うり渡
つし鷄あり
ちやむといふ鶤鷄
よりいかし小く脚
ふくくるくして勇也
闘とこのむ

鶤雞
たうまる

○雞い朝鮮國を
良とす羽色い品々
あり俗ふちやうく
といふ多く食すもで
度と補ひ中ぶある
ため血とる婦人
の崩にし
○雞い緒鳥れ巢
だらあり神く生
きてみぶり卵を
雞といふ母ろる食
ちひろ仏穀といふ

雞
ふいとり
たろうく

雛
ひよこ

○矮雞いりとり
江南ふるくから
ふくして脚ちぢ
ふ
二すんろく

○鶯うぐひす
羽色文采あり腹の
下白くしてうつく
しき鳥なり

○燕つばめ
燕ハ雀の大さにて
あり泥と含て屋宇
に巣をつくる戊巳の
日伏さるといふ

○鳩ハ惣名にて類ふかし圖する處ハ俗ニいふぢうすハ鳩
鳩ともいふ頸のまわり黑く背ハ灰ぬりたるごとく羽色灰白く活人此鳩をたべ

○青鳩ハ山に住く里に出ず羽色綠褐色なり食とれば虛を補ひ血を活を天子所衣の文是なり

○鳩は色褐みて
三月穀雨の後なれば
てゆく食をまい神と
安をこつく鳥といふ
是も鳩の類ふて三月
の頃多く声を聞て豆を
まくとのこり
○鴿は堂塔ふ多く
わつはりをこつ
精をこの気を益悪
瘡を治藥毒を解を
多く食をべつ

○鶫は鴨の大さ
羽色茶みて玉有
巣の暮に是を食
を味ひ
○鶉は鴨よりかしふ
く茶色ふて頭鷹の
如く小鳥を追肉食を
小児言てこれを鶉
の踏枝ふてうつり
○鶸はかくら雀ふて
わり羽色黒く黄る
羽まいる春をる

○畫眉は鸝鶻鳥
かしらに雀のと
羽及び尾に頬白く
黒き毛わり

○鶯は鶯より大ふ
翅ふ青くかりふ黒き
やうの羽わり秋の末
より冬月ふ末り鳴

○杜鵑は鶯より大ふ
なく黄黒く口赤し
四五月の頃夜法う
なく杜宇子規同

○鶯は鸝鶻かと
又喇喇鳥ともいふ
身首とりふ薄茶
色ふ黒きふわり
諸木の實と食ふ
秋冬多くなる

○鶺鴒は背かそく
尾長し花ささに鳴
居ささき尾をうごかと
羽白背黒きとせぐろ
といひ青く黄なる
ふきまいとて

杜鵑

鶯

鶺鴒

○翠雀ハ一名翠鳥とゝのふゝゝ雀の大さなどあり頭背とりふるゝゝ光やゝく黑ゝ色鳥ちやうとゝいふりのゝ

○蠟嘴ハ一名竊脂とゝのふゝゝひよどりのゝ大さなどにて喙いやゝく黃なりゝゝ色とゝのふゝ鳥ゝゝ蠟嘴と同喙爲赤ゝ

○烏鳳ハ身黑く尾長ゝ一名王母鳥ゝゝ

○雀ハ頭ハ赤の顆のごゝく目ハ椒の目のごゝく其性尤淫乱ゝゝ食を主ハ陽をちうんゝゝ氣をほゝ腰ひゝゝゝゝゝゝゝ小便とちゝゝ血崩帶下を治を頭ゝ食をゝゝゝゝ

○鸕鷀はうく言鳥なり白青くみ五色あり青さ羽赤嘴あり唐鳥なり

○竹鷄は鷸鴟に似てちいさく褐及みしてきぐるに赤しー尾なし蟻どろみ水をたとむ

鸕鷀

竹鷄

○鸛鴿はかちち鳥に似てふくよく人言とかを尤唐鳥なる

○蝙蝠はこうち蔦ふ似てつぐさは紙となるがおとしものあり其より秋のまきで秋ことふ死めぐらく蚊と食ふ昼は洞穴ふくろと居つぐさのさんふぐみてうとる

蝙蝠

鸛鴿

喇喇鳥也

○鴉は鬢太みてひ
さかる事と成黒焼
みてやせ病欬嗽
労疾を治す
○烏は鬢ひそく鴉
よりふとり生まく
毋哺こと六十日巣ご
ちたて毋と哺こと
六十日ろて養烏こと
○鳶は鷹に似てを
鴟同黒焼ふしく
頭風を治す

○怪鴟はろくろの
たぐひみく夜出
昼はかくれ居ること
ちは鷹ふ似くふし
不祥の鳥なり
○角鴟はかくちて
ろくにてちへこ頸
目猫このごとく毛角
あ耳わり長ふく
夜いづる声老人の
ものかたるがごし

○梟はかくち鳥に似てふく頭大にして丸く眼大なり夜出て昼はうごき居る雌々声さけぶがごとし母鳥と食ふとゝ不孝の鳥とゝろ

○鵲は大さ鴉のごとし尾とがり長し觜黒し食をきはゝ淋病消渴と治ゝる婦人は食ゝべからず

○秋雞は雞に似てふし頬白く觜長く尾みじく背に白きこゝあり田澤のかゝふをゝ

○鴫は大さ燕のごと嘴かたちゝ太ふ巻て長し足のゝ紅て短し水色にして魚をとる土のあるかりゝく巣つくる契黒く青くひゝる

○尖雛は かうち雛ふ類にして 長さ七八尺 百里異國の鳥なり 駱駝馬ふ似るゆへ名駱駝鶴とも

○鶏は鷹の類なり 鷹に似て羽色黄白なり 海邊水上に死めぐりくらく魚をとり食ふ

尖雛

一名 駱駝鶴

○羽斑鷸は ちどり たぐひなり 羽色ちがひ にふあり てうろ 田澤にをる鷸と 同くむらがり飛

○鳩は水鳥なり 大 ふあり ひくち鷹鳶 類して脚は長し

鶏 みさご

羽斑鷸

鳩

○鶺鴒ハふひとり天
さひさぐりをふく
頭白く背黒白の毛
かり　秋の夜多くむ
きこゝろ味ひ天也
○椋鳥大ひくとり
ふひくとりと大かり羽
色もかはり妻秋の
頂ゝるひきにかゝ
○菊戴ハ至て小さ鳥
なり却身ゝ青し
頂ゝ黄かり毛かり天

椋鳥
ふひく

菊戴

椋鳥
大ひく

気よくむくらゝ
頂の毛とりけゞ
月紅の毛ゝ冬月
ゝる鳥かり
○文鳥ハ小雀ゝかり
羽及黒く頬ゝ丸く
白き毛かり腹ゝ
○四十雀ハ小雀より
小く頭黒く頬丸く
白〜背ハうと青く
腹白く黒き毛かり
秋冬ゝる

文鳥

四十雀

○山雀い雀の大さ
とわり頭ろく背
黒くくかた色あり
羽づくひるくちてよ
くくるゆゑ籠に入
て飼そくあり

○鶺い四十雀に似く
小しー是も飼置ふは
毛色るいー

○小雀い鶺に似てい
ろくふしーいまも
秋乃を名にそる

○繡眼児い雀ろ
小し羽色ろ黄色
腹うと黄ろ目の
まわり白し多く集
り枝よし合とほる
鳥ろ

○尾長い至て小さ
鳥ろ頂灰白色羽
色うと黒灰白の毛
まだらをわろ毛ろ
尾長ー秋ろ冬
にいろてひと来る

○駒鳥鶯よりふく
頭背とりふ赤茶
久腹と黒き毛あ
山に住て里へぞ
鳴声と人賞て
飼とくなる
○九官は一名秦吉
了とゝ鳩よりふく
惣身黒く翅ふ白
き羽わりく人の
言ふ多と尤唐鳥
なり

○風鳥いとち雀
よりも大ふつぐき尾
とりふ長き毛わり
てみのゝきてるが如
し色ふ緑少そひ
つわりきもるる鳥
なり
○鸞ふ比翼鳥とも
書なる雌雄つぐき
とゝ〳〵て花とゝ
此鳥實ふ見てる人
ときなり

○喉紅鳥いかるが
雀の大さありのど
より胸ふくらて紅
にして美くきれなる
ものあり
○深山頬白小鳥
ふく羽色美なる
鳥あり
○黄雀いとめふれ
て黄あり又紅雀
いふ紅の色あり又
入門雀とも

○鸞い神鳥なり
ゆくち鶏ふ似て尾
長く声五音にあた
る鏡とゑまい舞
○蒼鷺いとぐろ
大ふして青く腹白
雨夜ふい羽青く光
りて人怪をなす
○葦雀ふ雀より
大ふり色く鳴葦
芦の中に居る河岸
澤のくりふ多

○鶴い鷹に似てう
紫黒く喙赤黒し
頸の長さ七八寸蛇を
食ふ大毒鳥なり鳳
凰とかをる
○雉鳩い鴿ふ似て
羽蔭黒赤く茶色の
ふちり行林ふ住てり
こゑとなく
○物鳴い鶏より茶色
ふく頸長く脚高
海名ふ住む

○都鳥いかしらとり
背い黒く腹白し
喙脚わしあ鳥
○音呼い大小あり
大なるい鳩の大さあり
ふかるいふ鳥なりを
及い和名五及あり
唐鳥なり
○羽い翎翮並ふ同
翮ふ糸羽根羽莖也
翮いなざきり翮上の
短羽なり

○翼ハ鳥のつばさ
かゝと翅同大鳥ハ
翼といふ小鳥ハ羽
と云
○尾ハ鳥の尾なり
膃同
○嘴ハ鳥のくちば
しなり喙同又吻ハ
くちびるハ脣ハくちば
○卵雛ハ諸鳥の
たまご鷄卵ハ五勝
と云水勝と温ひ

早稲田大学図書館
011688990850